

――――講演会のご案内――――

テーマ：「中国における産学研連携について」

日時：1月27日（火）15:00－16:00

場所：名古屋工業大学 19号館 202教室

講師：中国科学院 上海珪酸塩研究所 工業セラミックスセンター長
金平 実教授（元 産業技術総合研究所 中部センター職員）

趣旨

中国産業が大きな成長を遂げている大きな要因のひとつとして、極めてダイナミックで大規模な「産学研連携」システムを挙げることができる。具体的には、2012年の技術契約の成約総額は6400億元（12兆円）を越えて、前年度比35%増になっている。

研究開発機関や大学が企業の技術革新ニーズに積極的に貢献し、産学研が多様な形式で結合した体制が構築されている。例えば、自動車の軽量化技術の革新戦略連盟は、第一汽車や東風、宝鋼、西南アルミニウム業、華東理工大学、中国汽车工程研究院などの12機関から構成され、自動車軽量化に係るコア技術の知的財産権の取得と軽量化自主技術標準の形成を目標とし、産業分野をまたいだ基盤技術の革新を進めている。

欧米型の産学連携モデルとしてフラウンホーファー研究機構の例が取り上げられるケースが多いが、中国は言葉の問題もあり、中国の産学連携の実態や成功事例についての情報はかなり限られている。

今回、中国科学院上海珪酸塩研究所より工業セラミックス研究センター長の金平実教授をお招きして、「中国における産学研連携について」というテーマで講演をしていただく。概要的な紹介とともに、実際に中国で進められている産学研連携の実態などについてもご講演いただけることを期待している。

なお、金平教授は名古屋工業大学を卒業後、長らく産総研中部センターで研究開発に従事されており、講演は日本語で行われる。

<http://www.tbs.co.jp/yumetobi/backnumber/20090830.html>

注) 日本では産学官連携という言い方が一般的であるが、中国では産学研連携といわれることが多い。本セミナーは名古屋工業大学産業戦略専攻と(独)産業技術総合研究所 中部産学官連携センターとの共同開催です。

講師紹介

中国科学院 上海セラミックス研究所
工業セラミックス研究センター長/教授
金平 実 (かねひら みのる)



略歴：1986年に中国政府派遣国費留学生として来日、1989年に名古屋工業大学物質工学修士、1992年に同学電気情報工学博士号を取得、同年より2010年8月まで通産省工業技術院名古屋工業技術研究所（現独立行政法人産業技術総合研究所中部センター）主任研究官（同主任研究員）として在職、2010年9月より現職に就任し、現在に至る。

スウェーデン王国リンチェピング大学物理工学科中期在外研究員、中国科学院広州工エネルギー研究所特任主席科学家、上海交通大学客員研究員、愛知工業大学連携大学院教授、南京工業大学兼任教授、上海大学兼任教授、中国自然科学基金委評議員等を歴任してきた。

90年代初期より省エネ関連ナノマテリアル、特にサーモクロミック調光材料について精力的に研究し、学術論文を200編以上、著書（共著）3部、日本特許申請38件（取得21件）、中国特許申請42件などの実績を残し、省エネ窓ガラスフィルムに関する特許は現在実用化されている。